



算に比重がある制度であることは否めない。

決算の認定議案が議会において否決されたとしても、制度的には大きな問題は出ない。不名誉ではあるが誰も責任を取る必要はないし、市民生活に大きな影響は出ない。一方、当初予算が否決されたらどうなるか。そのままでは翌年度からの国民生活・市民生活は成り立たない。その意味では、予算の重要性は否定できない。逆に言えば、予算に比べて決算は重みがないと言っていい。

決算は予算執行の結果である。予算が当初の思惑どおり執行されていれば、予算執行結果が尊重されなくても特に問題ない。しかし、実態はどうか。予算どおりの執行は所詮無理である。読者は、「そんな無責任な・・・」と思われるかもしれない。しかし、予算と決算の乖離をゼロとすることはほとんど不可能であることは当然のことであり、ご理解いただけたらと思う。

問題は、予算で予定した事業効果が得られたかどうかである。「決算の認定議案が議会において否決されたとしても、市民生活に大きな影響は出ない。」と前述したが、筆者は実はそうは思わない。予算案を議会に上程し議決を受けるということは、予算の額を承認いただくという意味よりも、予算の使途とその予測される効果について承認いただくことに意味がある。したがって、予算執行の効果(結果)としての決算が認定されないということは、市民生活に影響がある予算の執行が正しく行われなかったことであり、その時点ですでに市民生活に影響があったということである。

しかし、予算の使途が国民や市民の知らないうちに振り替えられることがある。市町村よりも都道府県、都道府県よりも霞ヶ関にその傾向が強いと思われる(霞ヶ関の官僚のみなさん、失礼!)。言い過ぎはお許しいただきたいが、予算は確保するもので有効に使うものではない

という批判が生まれる。それは、予算至上主義が生む悪しき慣例のためであると思われる。

この悪しき慣例を打破する方法は、予算の使途とその予測される効果についてしっかりと説明することである。「そんなことは当然で、励行している!」とお叱りをいただくかもしれない。しかし、本当にそうだろうか。確かに国会、議会には予算の積算根拠は求められるし説明もしているだろう。しかし、その上で、予算の使途とその予測される効果について国民や市民にきっちりと公表しているだろうか。そこが問題である。

本市では、年度当初に義務的経費充当事業と経常経費充当事業を除く全ての事業(実施計画事業等)について、業績目標を公表する。その事業の予算と予測される効果(事業量)を公表する。そして決算時に、その結果を「行政サービスの品質説明書」として公表する。市民からみたら、約束を守ったか守れなかったかが一目瞭然となる。

かつて本市は、2度の決算不認定という不名誉な経験をした。そのおかげ(?)で決算の重要性について職員の意識は高いと思うが、喉もと過ぎれば・・・を回避するためには、“しくみ”が必要である。

現行の予算至上主義に立って、なお民間の常識である決算至上主義を少しでも取り入れるため、前述の業績目標とその結果公表をすることとした。まだまだ改善の余地はあるが、今後も決算の重要性を意識して、日常業務を遂行したい。

**「ぼっこすこせえる」とは・・・**神奈川県三浦市には三崎弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こせえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。

**次号(第29号)は12月18日発行です。**



### 3S市長の経営視点

三浦市長の吉田ひでおです。今、世間は、女性を中心に空前のランニングブーム。健康志向を背景に、走ることをファッションとして楽しむ女性を中心にランニングの愛好家が増えています。

三浦市でも、毎年春に行う三浦国際マラソンに全国から多くのランナーをお迎えしておりますが、去る11月16日に、もうひとつのランニングイベントである第14回三浦市城ヶ島駅伝競走大会が開催されました。小学生から少しご高齢の方まで、約150チームが城ヶ島の中を5区間に区切って襷を繋ぐ、市民のための駅伝大会です。

参加するランナーは、三浦国際マラソンの1万1千人余りに比べると750人と比べものにならないのですが、周囲4kmの小さな島には、ランナーの数倍のギャラリーが集まります。小学生から高齢者までが同じコースを走ることもあって、城ヶ島の中は応援の元気な声がこだまします。

そんな微笑ましい時間の中、市民の一体感を感じ、とても爽やかな気持ちにさせていただきました。こうした一体感がまちづくりのパワーになることを信じ、それを育む市民みなさまとご一緒にまちづくりをすすめたいと思います。